

## H18\_IV 公園緑地の機能・効果に関する計測手法に関する基礎的検討

調査項目 公園緑地の機能・効果に関する計測手法に関する基礎的検討

調査年次 平成18年度 章番号 [IV]

### 目的

数値化が可能で行政のアウトカム指標として活用できる公園緑地の多面的価値を把握し評価する手法や他の行政施策における効果測定手法等について事例収集する。  
なお、社会文化を醸成し、地域社会・経済を活発化させ、住民満足を充足させる社会資本としての公園緑地の必要性を今後論じていくための基礎的資料とする。

### 概要

既存の研究等において、公園緑地機能の解析や効果測定に言及している文献資料、または公園緑地機能の評価に言及している文献資料等を収集し、これまでの研究の到達点と現段階における適用の可能性について検討した。また、各都市で行政計画等に掲げられた政策・施策を評価するための指標項目とその検証方法について調査し、評価に寄与する公園緑地の効果について把握及び、道路、住宅、市街地等の都市基盤、農地、森林等の自然的土地利用が都市環境や市民生活に与える影響やその評価に関する文献資料を収集した。

### 結果

#### ■ 公園緑地の機能効果の計測に関する既往研究成果

公園緑地の機能効果は存在効果と利用効果の二つの体系で区分でき、それぞれの項目において研究成果が蓄積されている。

環境衛生的効果のように、一定の効果測定がなされている項目もあるが、全般的には定量的な効果測定がなされていないことが明らかになった。定量化困難な効果もあるが、更なる基礎研究の積み重ねが必要であることが示唆される。

#### ■ 公園緑地の機能効果から政策への対応

公園緑地が有する多様な機能・効果の実態が把握されつつある中で、政策・施策への展開において、公園緑地の価値が十分に理解されておらず、効果の実態と政策的認識との間には大きな乖離があることが明らかになった。

一つ目の乖離は、政策・施策として位置づけられていない機能・効果が多く存在し、社会的役割を果たしきれていないことが指摘でき、特に教育効果、存在による精神的効果などがこれに該当する。

二つ目の乖離は、政策として位置づけられながらも公園緑地の多機能性ゆえ評価対象になっていないということが指摘でき、環境衛生の改善政策、都市美観性の向上政策、防災性の向上政策などがこれに該当する。

### 課題

これまで都市公園が有する機能に関して、存在機能、利用機能の両面から様々な評価が検討され続けてきており、それぞれ一定の数値的な実証も行なわれてきた。しかしながら、こうした実証研究も現場の公園緑地行政において、必ずしも正当に評価されている訳ではない。このことは今回の調査結果において各都市で施策への反映状況が異なることから明らかである。

今回の調査結果から、効果→政策→評価の各段階において生じているズレを解消していくために、大学や研究機関との連携により、基礎研究の蓄積をしなければならない段階にあることは明らかである。

こうした状況下において、今後の検討課題を集約すると、

①公園緑地の機能・効果からみた社会的重要性を多角的に評価する

②行政現場に適用できる評価手法を開発し試行と検証を行っていく

の2点を検討の柱として、PDCAに連動した「現場で使える政策効果測定の方法論」の確立に向け、国や大学、他の研究機関と情報の共有化と共同調査体制を確立していくことが必要である。

### 調査結果反映等

調査項目 公園緑地の機能・効果に関する計測手法に関する基礎的検討

調査年次 平成 18 年度 章番号 [IV]

キーワード 公園緑地の機能・効果、計測手法、緑地の多面的価値、機能効果、基礎的検討

事例公園等